

2022 年度 (令和 4 年度)

学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番 39	福山市立 旭丘小 学校
最終更新日		2022年(令和4年)10月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する 情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力が弱い。 自尊感情が高まり、主体的に行動する姿が見えてきた。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、表現し、自尊感情の高い生徒
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情、主体性を高める取組をする。(年3回アンケート実施) 学校における働き方改革を進める。

III 自校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
一人一人のよさを仲間と共に輝かせる子どもを育て、地域に誇れる学校を創る		めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して順序立てて表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
学校教育目標			3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気づき、進んで行っている。	相手の気持ちを考え、行動している。
現状			5・6年	自ら設定し課題について、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	適切な理由や根拠のもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、説明したり、適切な方法で表現したりしている。	相手や場の状況に応じて、自分で目標をもち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。
研究		テーマ	「学びの3つのシンカ」 ～子ども達が没頭する学びに向けて～				
		内容等	友達と協働して学び合う「親化」、その学び合いを通してそれぞれの学びを深める「深化」、さらに次への課題に向けて学びを発展させる「進化」の授業づくり				
〈授業〉		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 児童が「学びが楽しい」と思える授業 課題解決に向けてあらゆる手段を活用し、みんなで「シンカ」する授業 				
〈児童生徒〉		<ul style="list-style-type: none"> 児童が、自分の考えを進んで発言したり、タブレットを活用して表現したりするようになってきたが、全体の前で発言する児童には偏りが見られる。 目標をもって物事に取り組むことはできているが、自己肯定感が低い児童が少なからず見られる。 					
〈授業〉		<ul style="list-style-type: none"> 研修計画に沿って研修を実施したり、Googleclassroomの研究室を活用したりして、教職員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。児童の多様な考えを生かした学び合いの授業づくりをさらに進める。 					

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 旭丘小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経 営	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
3	【確かな学力】 基礎基本の学力を 定着させ、論理的 思考力・判断力・ 表現力を高める。	★	継続	子ども主体の学び を実現させる。 【思】	ICTを有効活用し ながら、学びを深 化・進化させるた めの授業づくりに 取り組み、研修を 通して実践交流を 行う。	児童アンケート 「学びが楽しい」 「授業はよく分か る」の肯定的評価 を85%以上。	□児童アンケート の結果、「学びが 楽しい」の肯定的 評価89%、「授 業がよく分かる」 の肯定的評価9 1%であった。	3	4	学期に1回以上授 業を公開し、ICT を効果的に活用し ながら実践交流を 行い、子ども主体 の学びの実現を目 指す。				
5	【豊かな心】 児童が自ら考えて 行動する学校をつ くる。		継続	自分で考え、行動 する児童を育て る。 【課】【主】	リーダーチャート を活用して、取組 の成果と改善点を 代表委員会や終礼 等で交流する。 児童会が児童全体 が主体的に取り組 める内容を計画 し、実践してい く。	学級リーダー チャートにおいて 「目標達成力」の 全校平均85%以 上。 児童アンケートの 「自分の考えやよ さが認められてい る。」85%以 上。	□「目標達成力」 の平均は90%で あった。毎月の児 童会目標の達成に 向けて取組を考え ている。 □「自分の考えや 良さが認められて いる」アンケート の平均は74%で あった。	3	3	自分の考えを発信 し広げていくため に、児童会活動や 学級会活動を通し て、相手を受け入 れたり肯定したり する場を設定す る。				
5	【健やかな体】 主体的に体力を向 上させる児童を育 てる。		継続	体力向上のための 目標をもち取り組 む児童を育てる。 【主】	柔軟性、筋力、バ ランス感覚など、 走運動に関わるス キルについて、月 ごとに内容を決 め、体育科の時間 や家庭学習で取り 組む。	50m走のタイムを 縮めることがで きた児童を80%以 上。	50m走のタイムを 縮めることがで きた児童の割合は 62%だった。	3	2	目標を共有して取 り組むために、月 初めにどのような 体力づくり運動を 行うのか教室内に 掲示する。また、 児童実態に合った 体力づくり運動に するための検討を 重ねる。				

4	【力量ある教職員】 教職員の授業力・専門性を身につける。	★	継続	働き方改革の意義を理解し、業務の効率化を図る。 【課】	「学びの3つのシンカ」を目指し業務の効率化を図るとともに、取組の質を高めるための具体策を实践する。	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が時間外勤務時間を月45時間年間360以内。 教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定的評価90%以上。 	<input type="checkbox"/> 時間外勤務時間45時間以内の達成率が95.6%。 <input type="checkbox"/> やりがいを感じている職員の肯定的評価84.6%であった。	4	4	教職員一人一人がやりがいを感じることができるように、周りを巻き込んだ取組を進めたり取組の成果を共有したりする。					
5	【市民から信頼される学校】 学校・家庭・地域がつながり、学校の教育力を高める。		継続	学校・家庭・地域が学校の取組を共有し、児童を育てる。 【主】【共】	学校の教育活動を学校だよりやHPに加え、様々な発信手段を用いて積極的に保護者に伝える。	保護者・地域アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定的評価を90%以上。	<input type="checkbox"/> 保護者対象のアンケート、学校の教育活動に対する肯定的評価93%、情報発信に対する肯定的評価90.3%であった。	4	4	学校行事だけでなく、日々の子どもの活動の様子や成長が視覚的に伝わるよう工夫したホームページや学校便り、学年便り等をタイムリーに発信する。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。